東南アジア諸国におけるデジタル経済の進展と課題
：インドネシア共和国の事例から

藤倉　孝行（成城大学経済研究所）

デジタルトランスフォーメーションの波が押し寄せ、我々の生活環境を大きく変えつつある。中でも金融分野では、フィンテックという既存の金融サービスにはない新しいビジネスモデルが数多く誕生し、アプリケーションを使って簡単に金融サービスを利用することが可能となっている。この状況は日本をはじめとした先進国だけではなく、後進国においても起きている。とりわけ、今後も堅調な人口増加を裏付けとした経済成長が期待される東南アジア諸国においてデジタル経済が進展している。その一躍を担っているのがスタートアップであり、欧米をはじめとしたベンチャーキャピタルからリスクマネーが集まっている。

本稿では、東南アジア諸国の中でも、人口ボーナス期にあり、今後も経済成長が期待されるインドネシアを対象とし、産業構造が成熟していない後進国においてデジタル経済の進展は経済成長を加速させるのかという問題意識を念頭に、後進国におけるデジタル経済の進展並びにスタートアップへのリスクマネーにおける課題について考察する。

インドネシアは、資源に依存しやすい経済環境であり、経済が成熟して十分に工業化が進んだ上で脱工業化が実現できたとは言い難い。デジタル経済が本格的に到来し、スタートアップが育ちやすいビジネス環境になりつつあるが、既存技術をベースとしたサービスを展開するスタートアップが中心となっている。今後は革新的な技術やサービスが求められ、そのためには、産業人材の育成が大きな鍵を握るといえるであろう。